

知床半島ヒグマ管理計画 目標の達成状況及び評価（5 年間）

○知床半島ヒグマ管理計画の目標の達成状況および評価

← 計画期間（2017（H29）～2021（R3）年度） →

本計画の目標	目標値	結果						目標達成状況	主な対策 ※方策No. 後の「○△×」等については各方策の実施状況を知床ヒグマ対策連絡会議で評価したもの
		2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)		
①計画期間内における、斜里町、羅臼町及び標津町内でのメスヒグマの人為的な死亡総数の目安を75頭以下とする。（注4）	75頭	10頭	21頭	15頭	14頭	3頭	11頭	達成	【平時】 誘引物の除去、侵入防止柵・電気柵の整備、居住地周辺の草刈り 【方策2(○), 6(○), 32(○/△/○), 35(○/△), 37(△/△/○)】 【出没時】 威嚇追い払い 【方策7(△)】
	(累計)		21頭 (28%)	36頭 (48%)	50頭 (67%)	53頭 (71%)	64頭 (85%)		
②計画期間内における、ヒグマによる人身事故をゼロとする。	0件	0件	1件 (注8)	0件	1件 (注8)	0件	0件	未達成	【平時】 侵入防止柵・電気柵の整備、居住地周辺の草刈り 【方策2(○), 6(○), 32(○/△/○), 35(○/△), 37(△/△/○)】 【出没時】 出没情報の提供、問題個体の捕獲 【方策1(○), 8(△)】
	(累計)			1件	2件	2件	2件		
③利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を半減させる。	12件	13件	4件	10件	17件	16件	49件	未達成	【平時】 利用者への普及啓発 【方策9(△), 10(○), 14(○), 23(○), 24(△), S19(△)】 【出没時】 —
	(累計)			14件	31件	47件	96件		
④地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を半減させる。	10件	1件	10件	13件	9件	5件	20件	未達成	【平時】 地域住民への普及啓発（情報交換会、学校での普及啓発等） 【方策2(○), 6(○), 32(○/△/○), 35(○/△), 37(△/△/○)】 【出没時】 —
	(累計)			23件	32件	37件	57件		
⑤市街地（ゾーン4）への出没件数を半減させる。	210件	60件	96件	84件	136件	38件	121件	未達成	【平時】 侵入防止柵・電気柵の整備、居住地周辺の草刈り、誘引物の除去 【方策2(○), 6(○), 32(○/△/○), 35(○/△), 37(△/△/○)】 【出没時】 威嚇追い払い、問題個体の捕獲 【方策7(△), 8(△)】
	(累計)			180件	316件	354件	475件		
⑥斜里町における農業被害額及び被害面積を3割削減する。（注5、6）	4,652千円 523 a (5年平均)	5,524千円 609 a	8,727千円 852a	5,180千円 557 a	6,127千円 561a	3,533千円 347a	4,641千円 365a (5,642千円 536a)	未達成	【平時】 電気柵の整備、農業者向け普及啓発 【方策6(○), 32(○/△/○)】 【出没時】 問題個体の捕獲 【方策8(△)】
⑦漁業活動（特に羅臼側の昆布番屋等）に関係する危険事例の発生件数を半減させる。	2件	0件	3件	4件	1件	5件	0件	未達成	【平時】 漁業者向け普及啓発 【方策32(○/△/○)】 【出没時】 威嚇追い払い、問題個体の捕獲 【方策7(△), 8(△)】
	(累計)			7件	8件	13件	13件		
⑧ヒグマによる人身事故を引き起こさないための知識、ヒグマに負の影響を与えずにふるまうための知識を地域住民や公園利用者に現状以上に浸透させる。	—	—	—	—	—	—	—	—	【平時】 普及啓発 【方策9(△), 12(○), 14(○), 23(○), 32(○/△/○), S19(△)】 【出没時】 —

（注4）当該地域におけるヒグマの個体数に係る新たな知見が示されるなど状況に変化があった際には、その結果を踏まえ科学的な見地から人為的な死亡総数の目安について再考する。
（注5）本目標は、斜里町鳥獣被害防止計画（H27-29）より引用したもの。なおH30-R2以降の防止計画では目標を3割から1割減に下方修正している。
（注6）標津町や羅臼町においてもデントコーンや牧草ロール等に農業被害が発生しているが、被害の発生頻度や被害額は斜里町と比較して少なく、被害として計上する状況には至っていない。
したがって、目標には掲げずに被害状況を注視することとする。
（注7）③～⑧において基準とする年度及びそれらの達成状況を測るための年度については、それぞれの値の変動状況等を踏まえつつ、適切な設定を行う。
（注8）ハンターによる人身事故。

計画期間 5 年間（2017（平成 29）～2021（令和 3）年度）の各目標の達成状況及び評価について、以下に詳述する。なお、2021 年度は 2022 年 1 月 31 日までの実績値を示す。

目標① 計画期間内における、斜里町、羅臼町および標津町でのメスヒグマの人為的な死亡総数の目安を 75 頭以下とする。

メスヒグマの人為的な死亡総数は累計 64 頭（斜里町 40 頭、羅臼町 17 頭、標津町 7 頭）であった（表 1～5）。⇒達成

表 1. 2017 年のヒグマ人為的死亡個体の内訳（年齢別・町別・性別）

年齢/町・性別	メス			オス		
	斜里町	羅臼町	標津町	斜里町	羅臼町	標津町
0歳	1	0	0	0	0	1
1歳	1	0	1	6	1	0
2歳	2	0	0	1	0	1
3歳以上	10	4	2	4	6	5
小計	14	4	3	11	7	7
合計	21			25		

表 2. 2018 年のヒグマ人為的死亡個体の内訳（年齢別・町別・性別）

年齢/町・性別	メス			オス		
	斜里町	羅臼町	標津町	斜里町	羅臼町	標津町
0歳	0	3	0	0	1	0
1歳	0	0	0	1	1	0
2歳	0	0	0	1	3	0
3歳以上	8	3	1	3	3	3
小計	8	6	1	5	8	3
合計	15			16		

表 3. 2019 年のヒグマ人為的死亡個体の内訳（年齢別・町別・性別）

年齢/町・性別	メス			オス		
	斜里町	羅臼町	標津町	斜里町	羅臼町	標津町
0歳	3	0	0	2	0	0
1歳	1	0	0	6	3	1
2歳	1	0	0	2	2	1
3歳以上	5	3	1	9	5	2
小計	10	3	1	19	10	4
合計	14			33		

表 4. 2020 年のヒグマ人為的死亡個体の内訳（年齢別・町別・性別）

年齢/町・性別	メス			オス		
	斜里町	羅臼町	標津町	斜里町	羅臼町	標津町
0歳	1	0	0	0	0	0
1歳	0	0	0	1	0	0
2歳	0	0	1	0	2	0
3歳以上	1	0	0	3	3	2
小計	2	0	1	4	5	2
合計	3			11		

表 5. 2021 年のヒグマ人為的死亡個体の内訳（年齢別・町別・性別）

年齢/町・性別	メス			オス		
	斜里町	羅臼町	標津町	斜里町	羅臼町	標津町
0歳	1	0	1	1	0	0
1歳	1	1	0	2	1	0
2歳	1	2	0	6	2	0
3歳以上	3	1	0	4	7	3
小計	6	4	1	13	10	3
合計	11			26		

※2021 年は 2022 年 1 月 31 日までの人為的死亡個体数を示す。

<参考情報>

年代ごとにヒグマの人為的死亡数をメッシュ別に集計し、図1に示した。

なお、斜里町と羅臼町は1990年から集計し、標津町は管理計画がスタートした2017年から集計している。

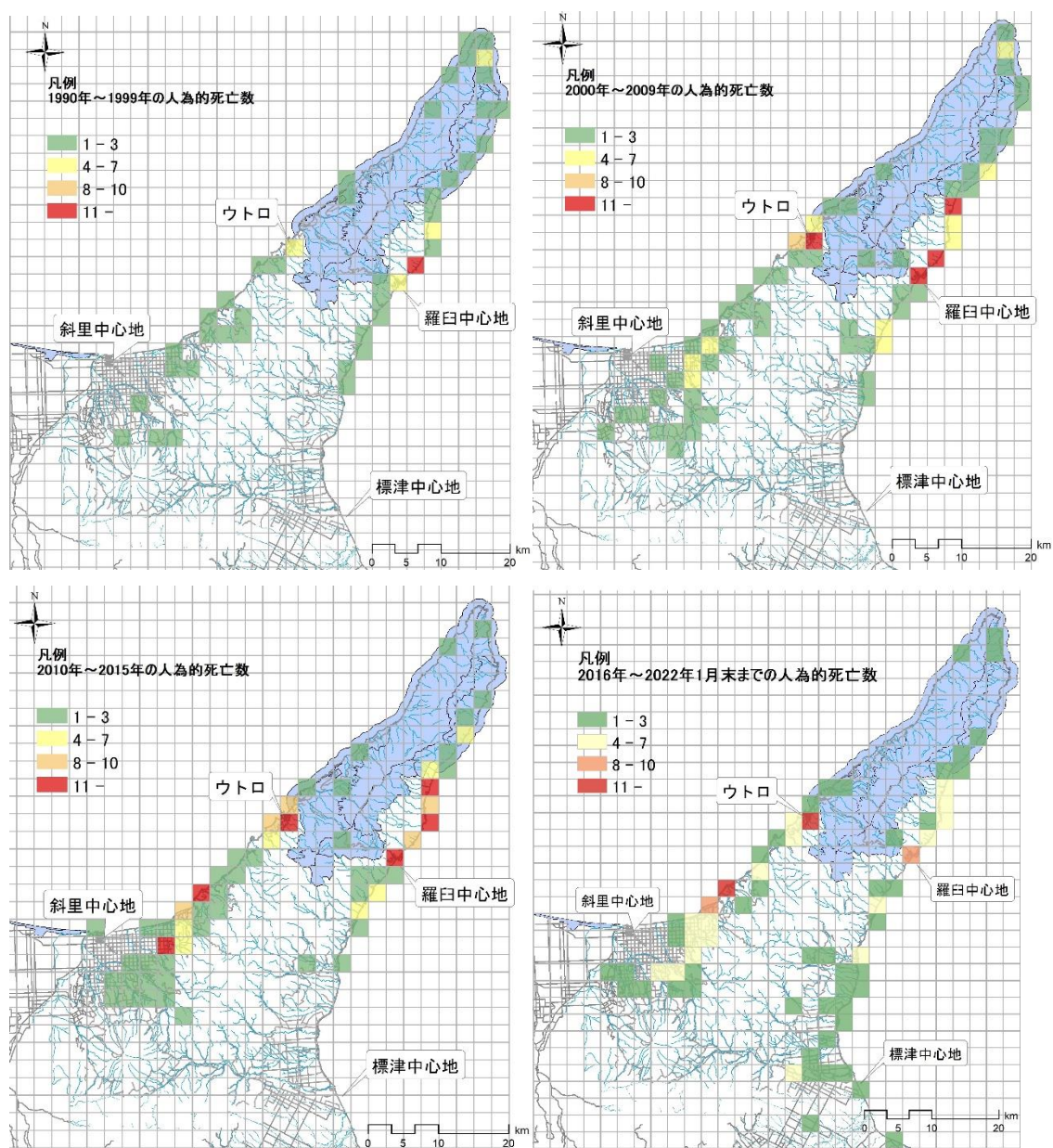


図1. 斜里町、羅臼町および標津町におけるメッシュ別のヒグマ人為的死亡数

※メッシュの大きさは縦横 2.5km

目標② 計画期間内における、ヒグマによる人身事故をゼロとする。

ヒグマによる人身事故は累計 2 件（どちらも斜里町）発生し、被害にあったのはどちらもハンターであった。⇒未達成

目標③ 利用者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を半減させる。

利用者の問題行動に起因する危険事例は累計 96 件（斜里町 92 件、羅臼町 4 件、標津町 0 件）発生した。⇒未達成

利用者の問題行動に起因する危険事例を行為別に分けると、撮影中が最も多く、次いでヒグマ観察中であった（表 6）。撮影や観察中の問題行動に起因する危険事例は、バスデイズの取り組み強化など、国立公園内の利用環境を改善していくことで発生は抑制できる。一方、釣り中の問題行動に起因する危険事例は、国立公園の境界線や国立公園外で多く発生しており、現行法では釣りそのものや海岸への立ち入りを禁止することは困難なことなどから、問題を軽減・解消するための有効な手立てに乏しい。過去に発生した当該目標の事例については、抜粋して表 7 に示した。

表 6. 利用者の危険事例に関する行為別の発生件数（2017 年度～2021 年度）

行為	国立公園内	国立公園外	計
撮影	61	5	66
観察	21	0	21
釣り	3	5	8
不法投棄	1	0	1
計	86	10	96

※2021 年は 2022 年 1 月 31 日までの件数を示す。

表 7. 利用者の問題行動に起因する危険事例の詳細（抜粋）

年度	日付・場所	状況概要
2017	10 月 13 日 斜里町	遠音別川河口で釣り人の釣った魚がヒグマに奪われる。
2018	6 月 16 日 斜里町	道道知床公園線に 0 歳 1 頭連れ親子が出没し渋滞が発生。マナーの悪いカメラマンがクマプレーとカメラを構えヒグマを追いかけてまわす様子が目撃される。
2019	8 月 19 日 斜里町	幌別ポンホロ林道入口付近の道路法面に 0 歳 2 頭連れ親子グマが出没。10 台程車両が停車し、降車する人多数確認。
2020	7 月 31 日 斜里町	幌別川で釣り人が釣った魚をヒグマに奪われる。この釣り人は別の釣り人からヒグマが出没しているため釣りをやめるよう注意を受けたにも関わらず、釣りを続けていた。
2021	10 月 13 日 斜里町	岩尾別川に単独亜成獣サイズのヒグマが出没。距離 10m の位置から 30 名前後の利用者が撮影していた。利用者が撮影している最中に、ヒグマが利用者のいる方向へ移動したため、慌てて逃げる状況も発生した。

ゾーニング 全体図

2017(H29)～2021(R3)

管理目標3における危険事例の発生状況(利用者関係) 96件

- 特定管理地(観光客が多く、利用拠点が存在)
- ゾーン4(市街地)
- ゾーン3(一次産業地)
- ゾーン2(少数の定住者、漁業番屋、林業)
- ゾーン1(定住者なし)

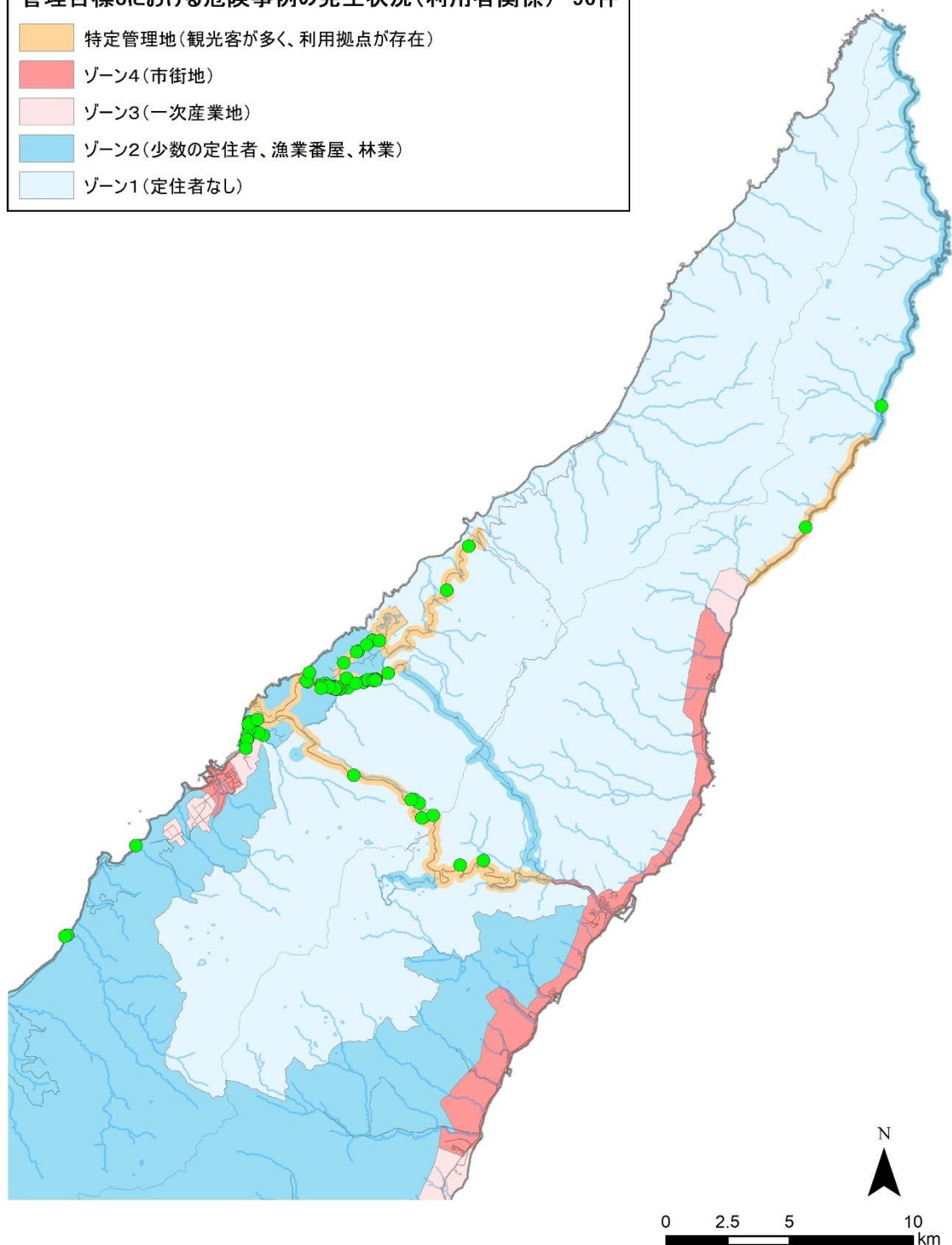


図2. 利用者の問題行動による危険事例の発生位置

※2021年は2022年1月31日までの件数を示す。

目標④ 地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の発生件数を半減させる。

地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例は累計 57 件（斜里町 10 件、羅臼町 46 件、標津町 1 件）発生した。⇒**未達成**

地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例は、地域住民による危険事例が最も多く、次いで事業者（水産加工関係）であった（表 8）。地域住民では、干し魚や不法投棄に関する危険事例、事業者（水産加工関係）では、生ゴミ（加工残渣）に関する事例が多かった。

過去に発生した当該目標の事例については、抜粋して表 9 に示した。

表 8. 地域住民や事業者の危険事例に関する関係者別・原因別の発生件数
（2017 年度～2021 年度）

関係者	干し魚	生ゴミ	不法投棄	その他	計
地域住民	24	4	7	3	38
事業者(水産加工関係)	1	9	0	1	11
事業者(観光関係)	0	1	0	1	2
その他	0	0	0	6	6
計	25	14	7	11	57

※生ゴミには加工残渣も含む。

※2021 年は 2022 年 1 月 31 日までの件数を示す。

表 9. 地域住民や事業者の問題行動に起因する危険事例の詳細（抜粋）

年度	日付・場所	状況概要
2017	10 月 28 日 斜里町	ウトロ東地区の住宅の干し魚がヒグマに奪われた。
2018	7 月 14 日 羅臼町	岬町住宅地の山側斜面で、広範囲にわたってヒグマ痕跡を確認。海岸側でヒグマによって食べられたと推測される新巻鮭を発見した。
2018	8 月 19 日 羅臼町	麻布町において、建物の外に置いていた魚の残渣入れがヒグマに荒らされていた。
2018	8 月 15 日 斜里町	峰浜地区の農地に大量の食品関係系ゴミが投棄され、ヒグマが餌付く状況が発生。
2019	7 月 27 日 羅臼町	峯浜町でヒグマに飼い犬を食べられた（2019 年度 2 件目）。
2021	6 月 27 日 羅臼町	海岸町で飼い犬 3 頭がヒグマに襲われる。うち、1 頭は死亡、2 頭は怪我。DNA 解析の結果、2019 年と同一のオスヒグマによるものと判明。
2021	7 月 11 日	岬町にて住宅脇のゴミステーションがヒグマに荒らされゴミが持ち去られた。

ゾーニング 全体図

2017(H29)～2021(R3)

管理目標4における危険事例の発生状況(住民、事業者関係) 57件

- 特定管理地(観光客が多く、利用拠点が存在)
- ゾーン4(市街地)
- ゾーン3(一次産業地)
- ゾーン2(少数の定住者、漁業番屋、林業)
- ゾーン1(定住者なし)

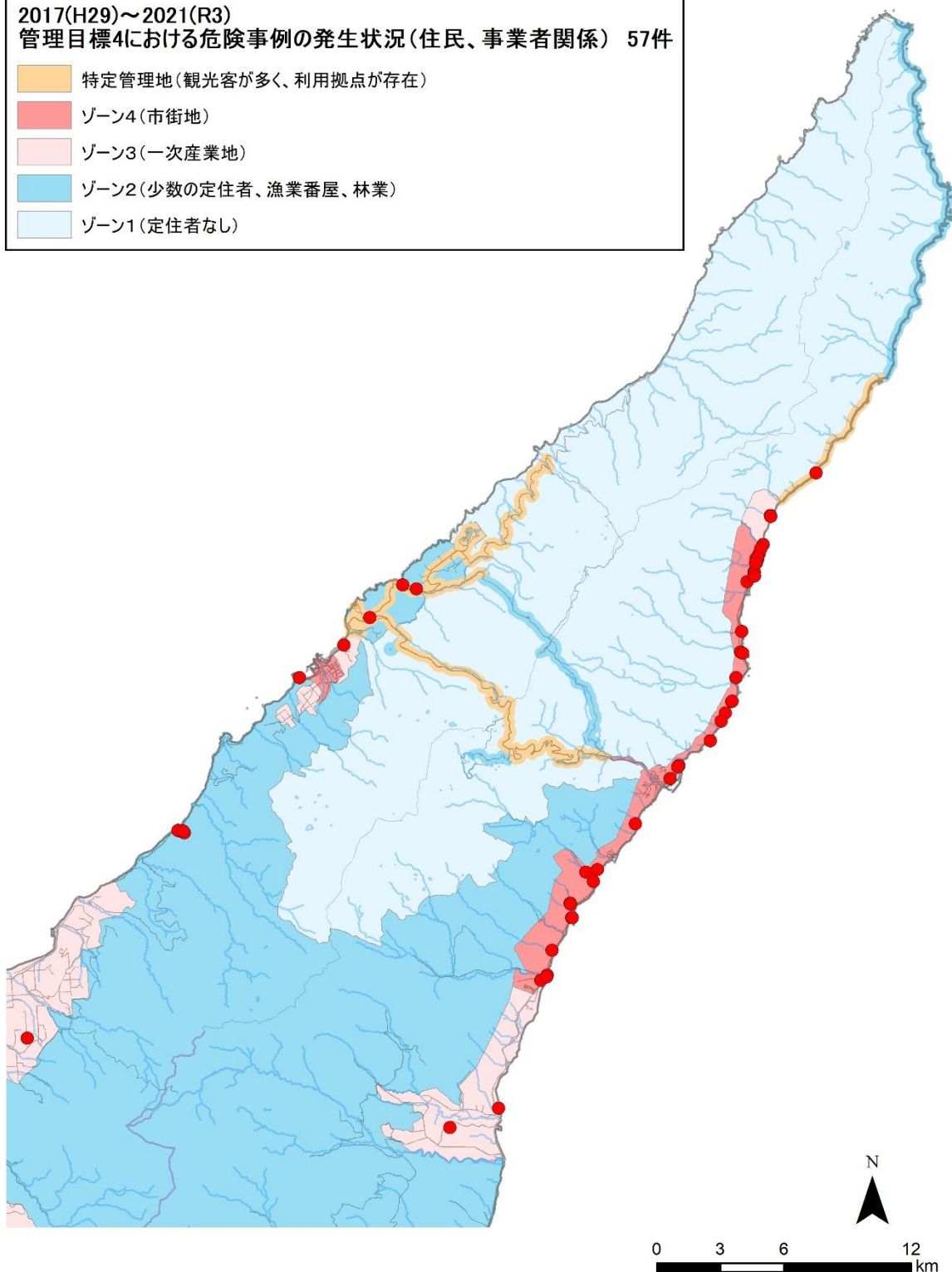


図 3. 地域住民や事業者の問題行動による危険事例の発生位置

※2021 年は 2022 年 1 月 31 日までの件数を示す。

目標⑤ 市街地（ゾーン4）への出没件数を半減させる。

市街地（ゾーン4）の出没件数は累計475件（斜里町28件、羅臼町433件、標津町14件）発生した。⇒未達成

5年間のゾーン4への出没事例、累計475件のうち、羅臼町は9割を超える（表10）。南北に長い市街地を有する羅臼町は、斜里町や標津町と比較し、ゾーン4とゾーン1・2の接する範囲が広く、ゾーン4への出没を抑制しにくい。

表 10. 町別・年別の市街地（ゾーン4）へのヒグマの出没件数（2017年度～2021年度）

町	2017	2018	2019	2020	2021	計
斜里町	5	6	5	4	8	28
羅臼町	91	78	124	32	108	433
標津町	0	0	7	2	5	14
計	96	84	136	38	121	475

※2021年は2022年1月31日までの件数を示す。

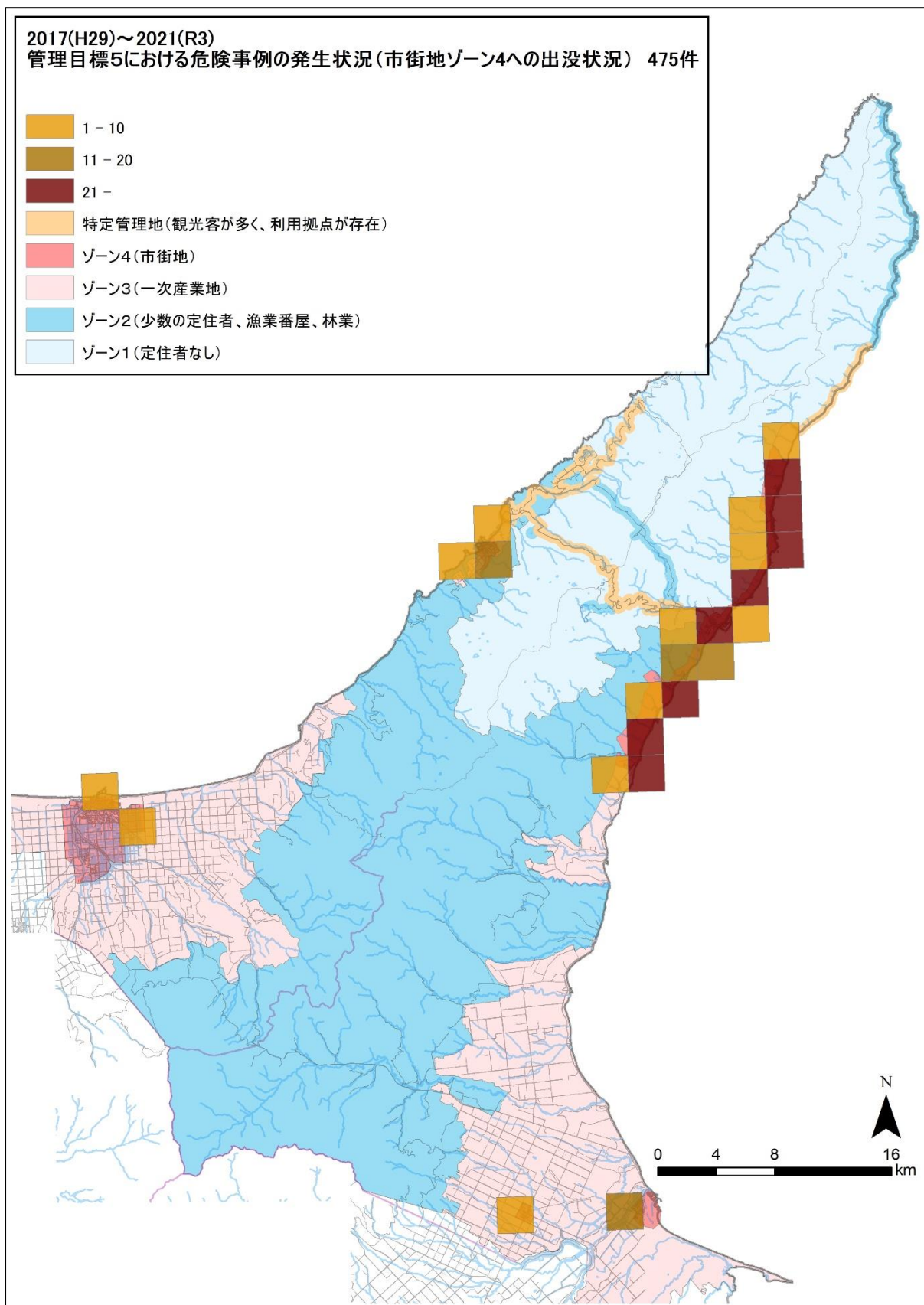


図4. 市街地(ゾーン4)への出沒発生位置

※2021年は2022年1月31日までの件数を示す。

目標⑥ 斜里町における農業被害額及び被害面積を3割削減する。

斜里町の農業被害額及び被害面積は4年間平均5,892千円、579aであった。2021年の農業被害額及び被害面積は集計中である。⇒未達成（見込み）

目標⑦ 漁業活動（特に羅臼側の昆布番屋等）に関係する危険事例の発生件数を半減させる。

漁業活動に関係する危険事例は累計13件（斜里町9件、羅臼町4件、標津町0件）発生し、すべてがヒグマに起因する危険事例であった（表11）。⇒未達成

過去に発生した当該目標の事例については、抜粋して表12に示した。

表11. 漁業活動に関係する危険事例の発生件数（2017年度～2021年度）

危険事例別	ヒグマの接近行為	定置網被害	番屋被害	計
人が起因となる事例	0	0	0	0
どちらともいえない危険事例	0	0	0	0
ヒグマによる危険事例	8	3	2	13
計	8	3	2	13

※2021年は2022年1月19日までの件数を示す。

表12. 漁業活動に関係する危険事例の詳細（抜粋）

年度	日付・場所	状況概要
2017	6月29日 斜里町	蛸岩付近のマスの定置網にヒグマが頻繁に出没。定置網に穴があく被害が発生。船が近づいても逃げない個体があり、作業に支障をきたした。
2018	7月18日 羅臼町	滝ノ下の漁業番屋の生活排水にヒグマが執着。当該個体は漁業者にブラフチャージを行った。捕獲体制で向かったが、当該個体は出没せず捕獲には至らなかった。
2019	7月24日 斜里町	蛸岩付近の海上の定置網にてヒグマが目撃され、網への被害も確認される事例が発生。
2020	8月7日 斜里町	幌別川河口にヒグマ（19MS01）が出没。漁業者が作業を中断し、避難。ヒグマは漁業者を見ても逃げず、作業場をうろうろしていた。

ゾーニング 全体図

2017(H29)～2021(R3)

管理目標7における危険事例の発生状況(漁業活動関係) 13件

- 特定管理地(観光客が多く、利用拠点が存在)
- ゾーン4(市街地)
- ゾーン3(一次産業地)
- ゾーン2(少数の定住者、漁業番屋、林業)
- ゾーン1(定住者なし)

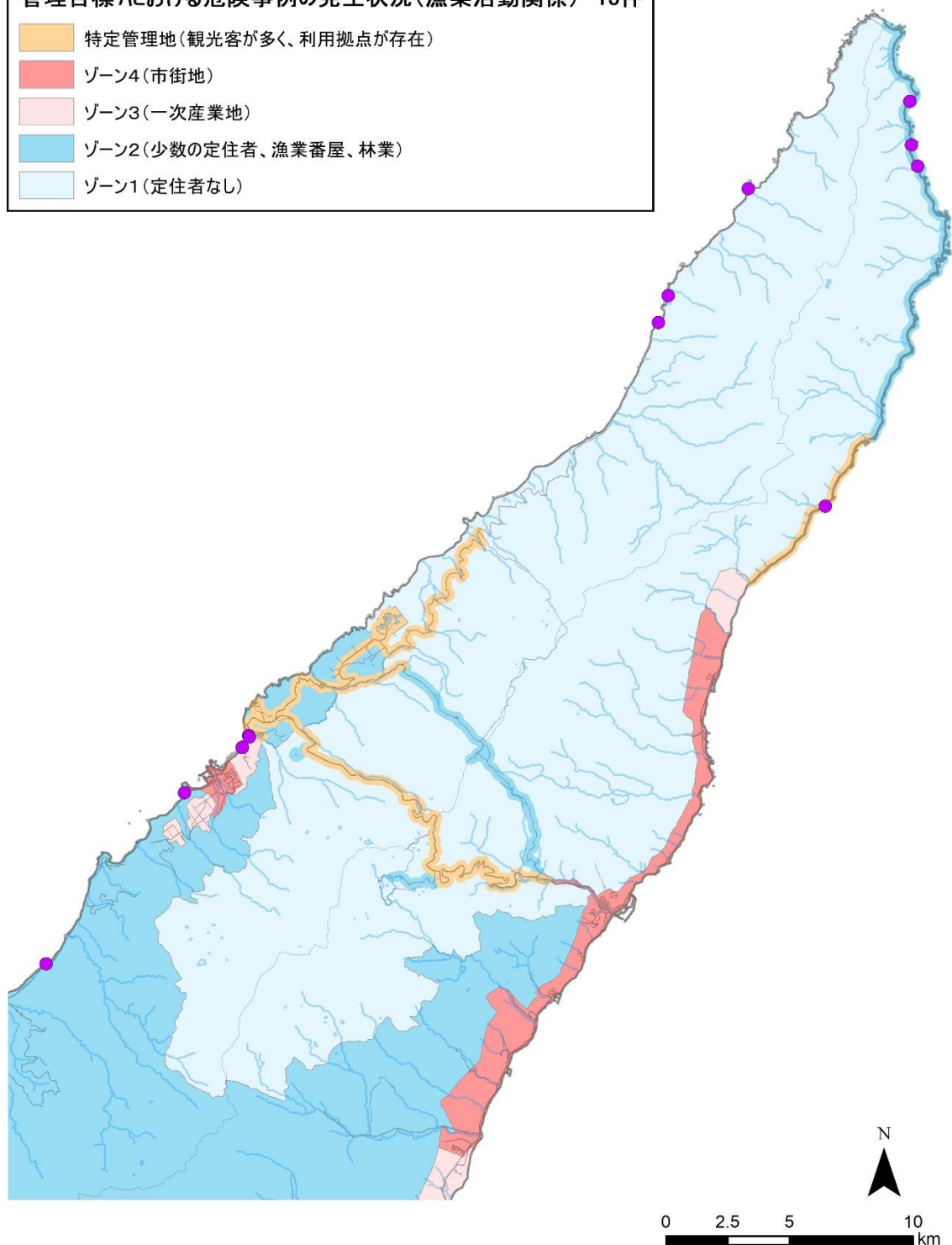


図 5. 漁業活動に関する危険事例の発生位置

※2021 年は 2022 年 1 月 31 日までの件数を示す。

目標⑧ ヒグマによる人身事故を引き起こさないための知識、ヒグマに負の影響を与えずにふるまうための知識を地域住民や公園利用者に現状以上に浸透させる。

ビジターセンター等での情報提供、SNS、注意喚起看板等による普及啓発をはじめ、地元小中学校でのヒグマ学習の拡充、人とヒグマの距離感を伝えるためのキャンペーンの実施、地元住民や地元企業との協働による草刈り活動等を実施し、安全対策やヒグマとの共存に関する適切な行動の明示によって知識を浸透させるための取組を進めた。この結果、2021 年度実施の地元住民と観光客を対象にしたアンケート調査では、住民や利用者の多くが正しい知識を得ていることがうかがえた。